

12月定例会 町政を問う 一般質問



Q バス路線維持は
A 朝昼夜の9便を要望



安部 誠也 議員
尾道松江線の開通を控え、国道54号のバス路線維持が一番の問題であり、

住民の不安が大きい。アンケート調査などの結果をどう分析しどう判断しているのか。
バス路線維持に関し、三次市及び雲南市との具体的協議結果、及び関係機関とバス事業者への要望結果は。

山崎英樹 町長

調査結果は、将来の利用を見越した存続希望が多数あり、バス事業者への要望材料として整理しているが、今まで通りに運行する考え方には隔たりがある。
三次市は三次を起点としての地域交通体系を考え、雲南市は自動車道にバス停を設置することを重視し、本町の考え方は基本的に違いがある。

国交省や県に対しては正式な要望をしていない。事業者には、現在28便運行しているところを、朝昼夜の9便を目標にし、両市とともに要望していく。

三セクといえども別法人であり、また町長からの監査請求もなかった中で、中まで入ったの監査はできなかった。
貸付金は2000万円残っており、この税外債権の回収に努力するよう町長に申し入れている。

Q 監査委員の使命は
A 注意喚起している



石原敏郎 議員
私は、三セク(株)サプロ島根に対する監査を促してきたが倒産した。事故を未然に防ぎ、町の財産を守るための監査であるべきだ。町民の間にも、監査委員の任務に關し大きな疑問があるが、監査委員の使命は。

税外債権であるサプロへの貸付金に關し、万全な措置を講ずるべきだ。また、税債権・税外債権に対する監査手法の違いは。

安部 朋次 議会選出監査委員

サプロ島根の倒産は、私も議員として支援してきた経過から遺憾に思っている。

Q 小水力発電推進を
A 梶原町を目標に

安部 議員

本町として再生型自然エネルギーの利用拡大を図り、小水力発電を推進すべきだ。
小水力発電は、太陽光や風力よりも安定した発電量があり、しかも地域産業への波及効果が見込まれる。

一昨年、民間事業者による小水力発電の調査が行われ、数力所の適地があるという報告だったがその後の推移は。
私は、地域資源の活用による地域活性化が、温暖化対策の推進に結びつくと考える。小水力発電を中心にした、高知県梶原町のようにエネルギー自給率100%を目指すべきだ。

また、外国資本が河川の上流地へ水資源(水源地)を求めて山林を買い求めていると聞くが、本町は大丈夫なのか。

山崎英樹 町長
非常に大切な問題であり「私見」という言葉には違和感がある。
副町長が事務局として整理しているので答弁させる。

山崎英樹 町長

非常に大切な問題であり「私見」という言葉には違和感がある。
副町長が事務局として整理しているので答弁させる。

景山登美男 副町長

委員会には、新庁舎建設の基本理念など5点についてまとめていたのだが、建設用地について絞り込み困難となり、会長・副会長に一任された。
二人は町内バランスなどを協議し、1番が赤名地内、2番が頓原地内、3番が上島地内及びび野萱地内とする答申案となった。

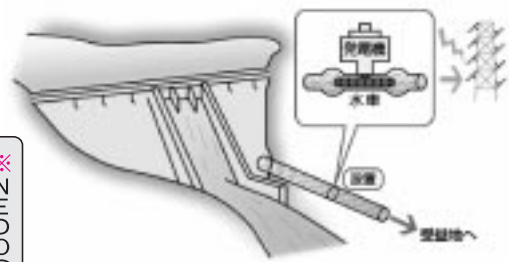
これを委員全員が了解したうえで最終答申としたものであり、有識者二人の私見ではない。

山崎 町長

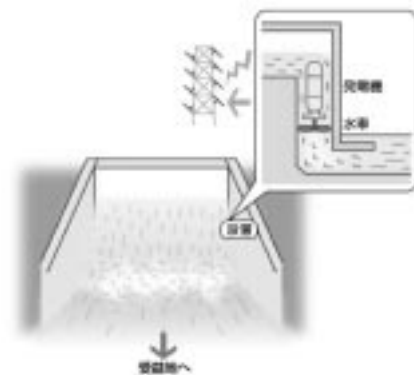
本町は、補助金を利用して小水力発電を進める計画であり、NEDOとの協議に入っている。
緑の分権改革を進める中で、水力も今後のエネルギー源の一つであり、地域産業という観点から

もNEDOからノウハウの提供を受ける。
梶原町に追いつけ追い越せと思っており、理念を持つて努めたい。
外国資本による山林買収は、現在のところ本町では聞いていない。

貯水地の落差を利用して



用水路の落差を利用して



※NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)新エネルギーおよび省エネルギー技術などの開発をおこなう経済産業省所管独立行政法人

この他に、安部議員から次の2点について質問がありました。
◆尾道松江線の開通を控え、食を通じた交通量の確保を図るべきであり、早急なB級グルメの指定と、集客力のある大手外食チェーンを誘致し、入込客を狙うべきだと町長に答弁を求めた。
◆災害時の緊急情報伝達には情報を得るチャンネルは多い方が安心であり、エリアメールの導入、全町への防災行政無線整備、NHKラジオ放送の受信環境整備について町長に質問した。

Q 納得いく職員給与
A 真摯に向き合う

石原 議員

町長は職員に「責任と誇り」と言っているが、町民には苛立ちと諦めが漂っている。町民へ対する愛情と謙虚な姿勢と感謝の念が欠けているのではないか。

また、地域に即した役割職員給与の見直しを期待するが、町長は職員組合にどう向き合うのか。
給与に見合う仕事をし

て公僕としての責務を果たすのか、職員給与をカットして町民と痛みを分かち合うのか、厳しい態度で飯南町の経営に当た



山崎 町長

職員の平成23年度給与と期末勤勉手当は据え置くとこととしたが、町民福祉の向上に向け真摯に向き合っていくことを確認している。

職務給・均衡・条例主義の三原則に基づく給料で職務にあたり、町全体の底上げを図っていく。
私に対する指摘や、奮起を望むエールをいただいたが、十分反省し我が身をただし、町民の役に立つ役場づくりに努めていく。

◆この他に、石原議員から次の3点について質問がありました。
◆農業委員会の任務や活動内容・委員報酬に關し、町長と高橋完農業委員会会長に答弁を求めた。
◆TTPP断固反対だけでは責任放棄だととして、参加不参加に翻弄されることのない独自政策で未来への布石を打つよう、町長に求めた。
◆農林漁業政策の基本的考えについて7点質問した。